

## 貯金（基金）

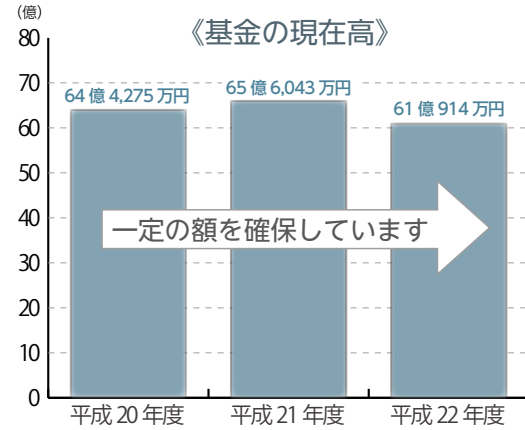
### 市の貯金は61億914万円です！

市の貯金に当たる「基金」は、災害発生等の緊急時の対応や教育・文化の振興、福祉の向上などのために積み立てて活用しています。

平成22年度は、地域振興基金1億6,921万円の廃止、介護給付費準備基金2億2,080万円の取り崩しなどを行いました。

これにより、全体で4億5,128万円の減となり、平成22年度末の基金残高は、61億914万円となっています。

なお、市民一人当たり換算すると9万4千円になります。



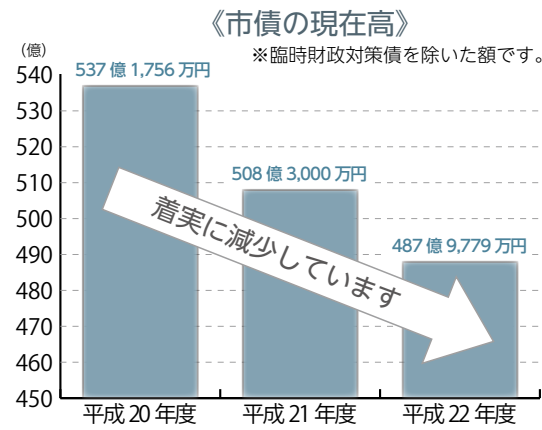
## 借入金（市債・企業債）

### 市の借入金は487億9,779万円です！

学校や図書館、道路などを建設するには多額の費用が必要なことから、借入金を活用して事業を行っています。これらの施設は、長年にわたり使用することになるので、次の世代を含め、使う人みんなが公平に費用を負担してもらうことが借入れをする大きな理由の一つです。

平成22年度末の残高は578億4,549万円ですが、後年度に交付税で措置される臨時財政対策債を除くと487億9,779万円です。

なお、市民一人当たり換算すると75万3千円になります。



今後も将来にわたり安定した行政サービスを市民の皆さんに提供できるよう、健全な財政運営に努めていきます。

## 健全な財政運営のために

### 計画的な繰り上げ返済を行っています！

合併前の旧4市村では、借入金を有効に活用して道路や下水道、福祉・教育施設などの整備を行ってきましたが、借入金の残高が増え、返済の負担が重くなっていました。

財政健全化のためには、大きくなり過ぎた借入金の残高を減らす必要があります。そこで市では、計画的な借入れと返済を行うとともに、市税や補助金などの収入確保と事務事業の見直しなどの経費節

減に努め、捻出したお金で繰り上げ返済を実施してきました。

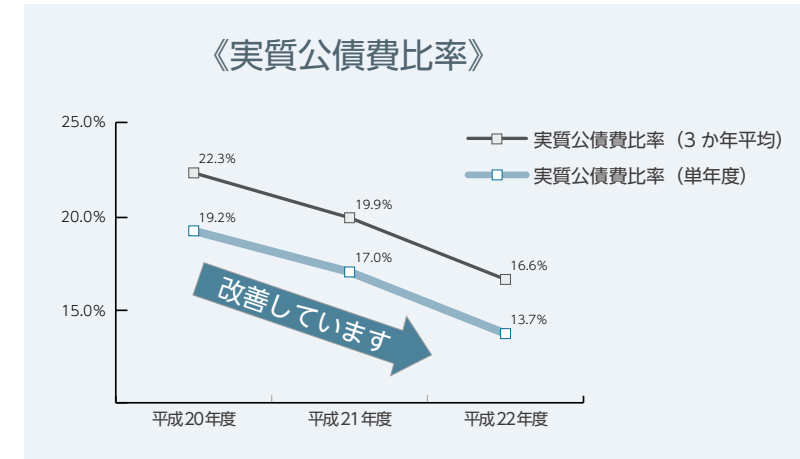
繰り上げ返済のメリットは、翌年度以降の利子が節約できることです。平成22年度においては、10億736万円の自主的な繰り上げ返済の実施により、8,184万円の利子の軽減が図られました。返済して無くなった元金分と利子節約分で捻出した財源は、市民福祉の向上に活用することができます。

## 健全化判断比率

「地方公共団体の財政健全化に関する法律」に基づき、4つの指標（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）で市の財政の健全性を見てみましょう。



イラスト提供：本町かずこさん



### 実質公債費比率が大幅に改善しました！

借金返済額の割合を示す実質公債費比率は、単年度で13.7%、3か年平均でも16.6%と、昨年度に引き続き、さらに改善しました。

財政運営上、安全の目安とされる18%を下回ったことで、今後は県の許可を得ることなく、市の判断で借入れをして事業を行う自由度が高まりました。

私(市長)が説明します



## 【健全化判断比率（平成22年度決算）】

指標	内容	白河市	早期健全化基準 (イOカード)	財政再生基準 (レッドカード)
実質赤字比率	一般会計 <sup>※1</sup> を中心とした赤字の割合	赤字なし	12.62%	20%
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計 <sup>※2</sup> 、企業会計 <sup>※3</sup> のすべての会計の赤字の割合	赤字なし	17.62%	40%
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合	16.6% (3か年平均)	25%	35%
将来負担比率	将来負担が見込まれる負債の割合	136.8%	350%	

※1 一般会計 教育や福祉、道路整備などを行う行政の基本的な会計

※2 特別会計 国民健康保険や公共下水道事業などを行うために一般会計と区別して設置する会計

※3 企業会計 水道など、民間企業と同様に利用料金などの収益で運営している会計

健全化が進み、市の「健全化判断比率」は、いずれも基準内となっていますが、他の自治体と比較すると高い水準にありますので、引き続き財政健全化に取り組みたいと思います。



皆さんから納めていただいた税金などのお金が入金に使用されているのか、また、市の貯金や借入金にはどれくらいあるのかなどを知っていただくために、市では、毎年6月と12月に財政状況を公表しています。今月号では、現在の市の財政状況と平成22年度決算の概要をお知らせします。

では、平成22年度の決算状況を見てください！



# 平成22年度決算の状況

## 一般会計

一般会計は、福祉や教育、道路整備など、市の行政運営の基本的な事業を行う会計です。平成22年度の決算は、歳入総額295億8,753万6千円に対し、歳出総額271億9,137万2千円で、差し引き23億9,616万4千円の「黒字」決算となりました。なお、翌年度に繰り越す事業の財源4億3,551万1千円を差し引いた実質収支額は、19億6,065万3千円でした。

**歳入総額**  
295億8,753万6千円  
前年度比 7.4%増

19億6,065万3千円は、平成23年度の借入金の返済と貯金の積み立て等に活用します。

**歳出総額**  
271億9,137万2千円  
前年度比 3.4%増

### 黒字

実質収支額 繰り越す事業の財源

<p><b>27.5%</b> 地方交付税 81億2,931万1千円</p> <p>全ての地方公共団体が標準的な行政サービスを維持するのに必要な財源を保障するため、国が国税の一定割合を地方に配分する交付金</p>	<p>平成22年度の市民生活に密着した主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域づくり活性化支援事業</li> <li>◎集会所整備事業</li> <li>◎地域の底力再生事業</li> <li>◎ふれあいバス応援事業</li> <li>◎高齢者サロン事業</li> <li>◎子ども手当支給事業</li> <li>◎こども医療助成事業</li> <li>◎しらかわ型自給率アップ事業</li> <li>◎しらかわ型集落営農推進事業</li> <li>◎農商工連携推進事業</li> <li>◎中心市街地活性化事業</li> <li>◎白河駅前イベント広場整備事業</li> <li>◎道路維持管理及び道路新設改良事業</li> <li>◎景観形成事業</li> <li>◎公営住宅改修事業</li> <li>◎白河第二小学校建設事業</li> <li>◎図書館建設事業</li> <li>◎白河市民歌制定事業</li> </ul>	<p><b>26.5%</b> 民生費 71億9,615万円</p> <p>老人福祉や児童福祉、保育園運営、生活保護など</p>
<p><b>27.1%</b> 市 税 80億2,957万1千円</p> <p>市民税、固定資産税、市たばこ税など、市民の皆さんに納めていただいた税金</p>		<p><b>17.2%</b> 教育費 46億8,949万9千円</p> <p>幼稚園、小中学校の学校教育、社会教育や文化財の保護など</p>
<p><b>18.8%</b> 国・県支出金 55億7,879万5千円</p> <p>道路整備や学校建設など、特定の事業に対して国や県から支出される補助金</p>	<p><b>15.3%</b> 公債費 41億5,277万5千円</p> <p>道路整備や学校建設などを行ったことによる借入金の返済</p>	
<p><b>11.0%</b> 市 債 32億5,690万円</p> <p>実質的な交付税である臨時財政対策債を除く市債は、14億6,240万円</p>	<p><b>14.0%</b> 総務費 38億665万5千円</p> <p>庁舎の維持管理、行政の電子化推進、市税の徴収など</p>	
<p><b>4.2%</b> 地方譲与税・交付金 12億5,158万6千円</p> <p>国や県が徴収した税から一定の割合で配分される交付金</p>	<p><b>9.4%</b> 土木費 25億6,747万4千円</p> <p>道路の舗装や維持補修、河川や公園の整備など</p>	
<p><b>11.4%</b> その他 33億4,137万3千円</p> <p>使用料・手数料、繰入金、繰越金など</p>	<p><b>5.5%</b> 衛生費 14億9,136万2千円</p> <p>各種検診や予防接種、ごみ処理など</p>	
	<p><b>4.9%</b> 農林水産業費 13億1,970万5千円</p> <p>農業の振興を図るための支援や生産基盤整備など</p>	
	<p><b>7.2%</b> その他 19億6,775万2千円</p> <p>消防費、商工費、災害復旧費など</p>	

## 【1人当たり・1世帯当たりの市税の負担と使われたお金は？】

※平成23年3月31日現在の住民基本台帳人口・世帯数により算出  
人口 64,556人  
世帯 23,442世帯

1人当たりの  
市税の負担額 **124,381円**  
使われたお金 **421,205円**

1世帯当たりの  
市税の負担額 **342,530円**  
使われたお金 **1,159,943円**

### 《1人当たりに使われたお金の内訳》 ※歳出決算額を行政の目的別に分類し、1人当たりの額を算出したものです。



## 特別会計

特別会計は、特定の収入で特定の事業を実施するための会計です。一般会計と区別することで、それぞれの事業の収支や運営実績を明確にすることができます。市には、国民健康保険や公共下水道事業など、15の特別会計があります。

区 分	歳 入	歳 出	差 引
国有林野払受費	18万3千円	18万3千円	0円
教育財産	55万2千円	55万2千円	0円
小田川財産区	177万7千円	177万7千円	0円
大屋財産区	8万2千円	8万2千円	0円
樋ヶ沢財産区	16万9千円	16万9千円	0円
土地造成事業	2億216万7千円	2億166万6千円	50万1千円
国民健康保険	65億5,979万8千円	59億9,856万1千円	5億6,123万7千円
老人保健	1,808万8千円	1,808万8千円	0円
後期高齢者医療	5億684万円	5億322万8千円	361万2千円
介護保険	39億7,739万円	39億3,678万1千円	4,060万9千円
地方卸売市場	2,691万2千円	2,691万2千円	0円
公共下水道事業	16億3,877万2千円	16億723万9千円	3,153万3千円
農業集落排水事業	9億9,276万2千円	9億6,747万2千円	2,529万円
個別排水処理事業	5,481万4千円	5,481万4千円	0円
簡易水道事業	3億2,307万5千円	3億1,220万8千円	1,086万7千円
合 計	143億338万1千円	136億2,973万2千円	6億7,364万9千円

### 【水道事業】

区 分	歳 入	歳 出	差 引
収 益 的	10億6,850万5千円	9億5,581万9千円	1億1,268万6千円
資 本 的	9,376万5千円	5億4,376万円	△4億4,999万5千円

### 【工業用水道事業】

区 分	歳 入	歳 出	差 引
収 益 的	4,327万9千円	4,327万9千円	0円
資 本 的	764万5千円	3,393万1千円	△2,628万6千円

## 企業会計

企業会計は、地方公共団体が社会公共の利益を目的に経営する地方公営企業の会計です。主に、利用者が支払う料金収入で事業を行っています。

◇市の財政についてもっと知りたい方は、市ホームページ (<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>) でもご覧いただけます。  
《くらしのインデックス → 地域づくり・行政 → 財政》

本庁舎財政課 ☎ 1111 内 2332